

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成24年12月5日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670104860
法人名	医療法人 佑志会
事業所名	グループホーム 花々館郡山
所在地	鹿児島県鹿児島市郡山町2157番1 (電話) 099-298-4078
自己評価作成日	平成24年11月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=46
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成24年11月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

医療法人を母体としており、入居者様の希望に合わせたリハビリテーションの通院支援や24時間体制で医療連携がとれ、緊急時対応の整備も図れ、バックアップ体制が充実している。職員は各種委員会に所属し、毎月の勉強会や法人内研修・外部研修に参加し、資質の向上に努めている。他グループホームとの交流や地域交流を通して、支え・支えられる関係作りに取り組んでいる。又、地域の事業所との災害時等の協働ができる環境整備もできている。入居者様一人々のペースに合わせ個別性を重視し、利用者中心、尊厳を意識したサービス提供に取り組んでいる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・職員の「気づき」を大切に、「言動」や「様子・場面」を記録し、職員全員で情報を共有している。また、家族にも記録を開示し、本人の意思を尊重した生活ができるように支援している。
- ・母体の医療法人と24時間体制の医療連携ができており、利用者や家族にとって安心できる環境である。
- ・ホームは、地域行事への参加やホーム便りの回覧を届けたり、小・中学校との交流やホームの敬老会等に近隣の人が訪れる等、地域との交流を積極的に行っている。
- ・災害対策で、自主訓練や勉強会を毎月実施し、ホームの周辺状況や避難経路等を実際に点検し、災害時の避難マニュアル作成に活かしている。また、防災ケア会議への参加や救命ボランティアの登録もしており、地域との協力体制を築いている。
- ・職員は、各委員会活動や地域の防災ケア会議での災害対策についての発表をしたり、運営推進会議で勉強会の研究発表等、サービスの質向上のために取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念を基にもっとわかりやすく理解する為に、3つの項目に分けた。そして、それを基に毎月の目標を掲げ、その月は重点的にその目標に取り組み、月末には達成できたかどうか話し合っている。そうすることでスタッフ全員が理念を意識し、共有し、実践につなげられている。	理念は事業所内に掲示し、パンフレットにも載せている。理念をわかりやすくするために検討し、3項目に分け、月ごとに具体的目標を掲げ取り組んでいる。毎月のミーティング時に、目標達成の話し合いを行い、よりよいサービスが提供できるように努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事や活動に積極的に参加し、地元の方々との交流に努めている。自治会へ加入し早朝清掃や回覧板を通して地域との関わりを深めている。	自治会に加入し、ホーム便りを回覧している。地域の図書館へ行ったり、運動会を見学したり、ホームの敬老会等に地域の人が訪れている。小学校の入学式に参加したり、ベルマーク集めに協力しており、中学校の運動会見学や職場体験も受け入れ、交流を積極的に行っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	ホームの新聞を通しての啓蒙や地域の研修に参加し、意見交換やホームでの取り組み活動等地域へ伝えている。運営推進会議にて定期的に認知症について（倫理・尊厳等含む）勉強会を行った内容を発表し意見交換している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2カ月に1回開催している。会議では構成委員の方々へ日々の活動状況、事故報告、勉強会の内容発表等行い又、それぞれの分野の情報や意見を頂き、サービス向上に活かせる様努めている。</p>	<p>会議には、家族や自治会長・民生委員・近隣住民・駐在所や地域包括支援センター職員等が出席している。職員が勉強会で研究発表したり、活動内容等を説明し、意見交換を行っている。また、外部評価の結果や改善点についても報告し、サービスの質向上に反映させている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。</p>	<p>市町が主催する研修会へ積極的に参加している。介護保険業務の円滑な遂行を図る為にさまざまな相談事を各関係機関へ問い合わせ、助言等も含め協力を頂いている。</p>	<p>運営推進会議に地域包括支援センター職員が出席したり、市主催の研修会等への参加や介護相談員を受け入れている。利用者に関する相談をしたり、情報交換を行い、関係づくりを心がけている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束委員会を中心に拘束がもたらす弊害や身体拘束をしないケアの理解と実践について勉強会を行い知識を深めている。又、各利用者ごと、自分達のケアが拘束・虐待にあたらぬか定期的に検討・見直しを行っている。尊厳を重視・意識したケアに取り組んでいる</p>	<p>身体拘束廃止委員会を中心に勉強会を実施し、身体拘束に関する個別のチェック表を作成し、定期的に支援内容の振り返りを行っている。職員の共通認識を図り、身体拘束をしないケアに取り組んでおり、日中は玄関の施錠はしていない。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>身体拘束委員会を中心に定期的に虐待について勉強会を行っている。虐待の定義を基に、日頃の介助や言葉かけが虐待にあたらぬか等の検討会を行い、防止に向けて取り組んでいる。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	学習委員会を中心に権利擁護についての理解を深めるため全職員を対象に勉強会を行い又、外部研修にも参加し知識を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約の締結・解約において、入居者様・家族の方が理解・納得出来るまでしっかりと説明している。改定等の際も利用者様・家族の方に書面にて理解・納得できるまで説明し同意を頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱を玄関に設置し又、入居者様・家族の方より相談・苦情が言いやすい環境づくりに努めている。利用者様には定期的に、家族の方へは面会時に意見や要望が無いか聞き、意見が出た時には直ぐに対応している。	利用者からは、日頃の生活の中で意見や要望を聞いている。家族からは、家族会や面会時を活用して要望等を聴取している。意見や要望に対しては、速やかに対応し、解決できるように、職員全体で改善に努めている。意見箱も設置している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月のスタッフ会議や毎日の申し送り時、又、個別に意見を聞き、検討し業務改善等に反映されている。	管理者は、毎月のミーティングや日常の申し送り時等に職員からの運営に関する意見や要望等を聞き、コミュニケーションをとるよう心がけている。また、代表者に業務報告をし、勤務希望についても配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>代表者は随時、ホームへ訪問し利用者との会話を持ったり、職員の業務内容や悩み等の把握に努めている。年2回の健康診断や予防接種等、職場環境・条件の整備に努めている</p>		
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>毎月、法人内研修あり、夜勤者・遅出以外の職員全員、参加している。外部研修にも交代で参加し、ホーム内でも各委員会による勉強会を毎月行い、質の確保・意識の向上を図っている</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人グループ内の同業者との定期的に交流・意見交換を行っている。グループホーム連絡協議会に加入し2~3か月ごとの研修会への参加する等交流の機会を持ちその時、相談・助言を頂いている。毎月、地域のグループホームの勉強会に全職員参加し、交流を深めている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>事前面談の際、本人様より生活歴や不安に思っている事等、出来るだけお話しして頂き又、此処での生活等詳しく説明することで不安の解消できるよう努めている。入居後直ぐは環境の変化等により心身共に不安になりやすいので寄り添い・関わりの時間を多く持つようにしている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>相談・情報収集時の際、これまでの経緯や家族の思い・要望等をじっくりと聴き、安心して頂ける様、努めている。又、此処での生活等についての説明をしっかりとすることで不安の解消に努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>生活歴や心身の状況・疾患等を良く把握して最優先のサービスが何かを見極め、医療機関や地域ケアと連携を図り対応している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>入居者様の持っている力を引き出せるように、趣味や興味を持ってそうな事を提供し又、家事全般を共に行い役割を持ち主体的に生活出来る様取り組んでいる。又、得意話の中から様々な事を教わりながら、その方の思いに気付き、共感し、支える関係作りを築いている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様の日常の様子、状況を定期的に報告し、情報共有に努め家族の協力をもらいながら入居者様の支援を共に行い支え合う関係作りに努めている。イベント時には家族の方にも参加して頂き、共に楽しめるよう配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場との繋がりが途絶える事のない様、定期的に外出支援を行い又、家族の協力で外出が出来るよう、働きかけている。	友人や知人の訪問があり、継続的な交流ができるように支援している。美容院や墓参り等への外出についても、希望に沿えるように配慮し、家族との外出も支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レク活動や家事活動を通して皆が一緒に過ごせ、自然な形でふれあえる様、職員が間に入り、共通の話題を提供し、和やかな場を保てるよう配慮している。認知症の進行等、個々の状態の変化に応じてサービス内容を検討・見直しを行い関わりあえる環境整備に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院による退去者がほとんどで退去後も見舞いに行き、本人や家族との関係を保ち、相談や支援に努めている。又、退去後も家族に行事の案内を出し、参加してもらったり、ホームに定期的に遊びに来てもらっている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常生活の中でその人の希望や要望・今後の意向等又、得られた気づきを基に、職員全員で検討し情報共有することで本人の望む生活が送れるよう努めている。意思表示がなかなか出来ない方も家族も含め定期的にカンファレンスを行い、本人本位に検討している。	利用者からは、日々のふれあいの中で思いや意向の把握に努めている。職員の気づきを大切にし、言動や様子・場面を記録し、職員全員で情報を共有している。家族にも記録を開示し、本人の意思を尊重した生活ができるように支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時、本人、家族より生活歴等を把握し又、担当ケアマネやソーシャルワーカー等より情報収集したうえで入居に繋げている。又入居後も本人、家族より情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活パターンや心身状態・出来る事、出来ない事等、記録に残し全職員が確認し変化があればその都度、情報交換を行いサービスの提供内容を振り返り、その時々に応じたサービスがなされるよう取り組んでいる。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議ででた意見や本人、家族の意向・希望を基に、本人・家族・病院関係者・職員間で担当者会議を行い、現状に即した介護計画を作成している。状態が変化した場合は随時計画の見直しを行っている。	利用者や家族の意見を聞き、毎日の暮らしぶりをもとに全員で話し合いを行い、現状に即したプランになるように作成している。モニタリングは毎月実施し、ケア会議にて「気づき」の記録等を確認している。介護計画の見直しは6ヶ月毎であるが、状態が変化した場合は、随時見直しをしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の状態・変化・気付き等は都度検討し意見を出し合い、記録し、全職員が必ず目を通し情報共有を図り、ケアや介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>通院・買い物・理美容等は本人家族の希望に柔軟に対応している。又、法人内の看護師による連携体制を確保し、急変時における医療機関との連携を図っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域交流（小・中学校）や公共の場の利用・各関係機関との関わりや協力をもらいながら安全に楽しく生活できるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居前に各協力病院の説明を行い、本人、家族より同意を頂いている。通院介助を行う・行った際にはその都度、家族に状況説明している。連携医療機関での定期・急変時の受診等、24時間体制で医療連携が図れている。</p>	<p>希望のかかりつけ医で受診できるように、支援体制を整えている。通院は、家族の協力を得ながら支援している。母体法人が協力医療機関であるので、24時間体制の医療連携ができており、緊急時に対応が可能である。利用者や家族にとって、安心できる環境である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>連携医療機関より週1回看護師を派遣してもらい、日常の健康管理や医療面での相談・助言・対応等を行ってもらっている。又随時、電話や受診時、報告・相談し、指示をもらっている。24時間いつでも連絡出来る体制である。緊急時の連絡・対応も整っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入居者様が入院される場合、不安なく納得できるよう説明し又、家族には直ぐに状況報告している。病院へは情報提供を行い入院中も主治医や担当看護師より情報収集し、本人の不安軽減を図ると共に、家族へも定期的に状況報告している</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居契約時、本人・家族へ「看取り看護」や法人内での協力体制が整っている旨の説明し、本人・家族の了承の上、同意を頂いている。その後も重度化や終末期のあり方についての話し合いを行い本人・家族の意向の把握に努めている。全職員を対象に看取りについての勉強会も行っている。</p>	<p>入居時に「重度化した場合における（看取り）指針」を説明し、同意をもらっている。看取りについては、定期的に勉強会を行い、事業所の方針を全職員が共有している。また、ホームと家族・主治医と連携して、できるだけ支援していけるように取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急対応マニュアル及び緊急時の連絡体制を整え、職員全員が熟知できるよう定期的に事例を基に勉強会を行っている。職員全員、普通救命講習を受け又、定期的に訓練を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	各災害時の避難マニュアルを作成し各々の役割、通報の連絡体制を整えている。防災委員会を中心に毎月、勉強会や自主訓練を行い、年1回の消防立会いの訓練時には近隣の方にも参加して頂き、救命ボランティアの登録や地域施設の防災ケア会議への出席等地域との協力体制を整えている。	避難訓練は毎年実施し、近隣住民との協力体制ができている。自主訓練や勉強会は毎月実施し、ホームの周辺状況や避難経路等を点検し、災害時の避難マニュアルを作成している。防災ケア会議への出席や救命ボランティアの登録をしている。非常用の食料・水も備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	定期的に倫理（尊厳・接遇・虐待等）の勉強会を行い、特に利用者の尊厳について話し合い、検討・確認し改善に努めている又、各々のプライバシーを傷つけない・羞恥心に配慮した対応を心掛けている。	毎月、尊厳や接遇等、テーマを決め、勉強会を実施し話し合っている。特に、利用者に対する言葉使い等、職員がお互いに確認し合っている。また、人格やプライバシーに配慮し、接遇を大切にした支援に心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の関わりの中で話しやすい雰囲気作りに心がけ、定期的に此处での生活やしたい事等の希望、嗜好調査等を個別及び集団で聞き、希望に添えるよう対応している。選んでもらう場面を作る・選ぶのを待つ等、全てにおいて確認しながら自己決定出来る様、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の大まかな流れはあるが入居者様の気持ちを優先して支援している。レク活動等、強制せず、したい方にして頂いている。自室での時間を大切にテレビを見たり、休んだりと一人々のペースで生活できるよう見守りを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	出来る人は毎朝、化粧され着る服も自分で選びおしゃれを楽しんでおられる。出来ない方にも着る服等の確認声かけし、その人の思いに添うよう配慮している。理美容は本人希望時に馴染みの店に行ったりホームに来てもらったりと支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に嗜好調査を行い、栄養士に相談しメニューに取り入れてもらい又、買い物に出かけ購入し楽しみになるよう配慮している。各々の力量に応じて野菜を切ってもらったり盛り付けしてもらったりと一緒に活動している。	嗜好調査を行い、利用者の好みに配慮して、栄養士が献立を作成している。調理の上手な利用者もあり、職員と一緒に下ごしらえなど行っている。職員と利用者が同じテーブルを囲んで、楽しく食事ができる支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内の栄養士により栄養バランスのとれた献立を作ってもらい、個々に合わせた食事形態にしている。食事・水分摂取量をチェックして記録を取り、情報共有し、摂取量が少ない時には、分食にしたり、代用品で補ったり、時間をずらす等の配慮をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけを行い、一人々の力量に応じて見守り又、不十分な部分は磨き直しなど、介助している。口腔ケア時は必ずうがい薬を使用している。就寝時は義歯消毒をしている。歯科医師の往診や歯科医へ通ったりと治療を受けられる体制を整えている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら時間を見計らい、トイレの声かけ、誘導している。又、一人々の排泄パターンを把握し仕草等に気を付け、日中はなるべく尿パットをはずし、皮膚疾患をおこさないためにもトイレでの排泄が出来るよう対応している。夜間、男性の場合尿意のある人は尿器を使用している。	排泄チェック表を作成し、排泄パターンを把握している。利用者個々の状態に応じた対応を行い、トイレでの排泄ができるように支援している。飲食物等を工夫したり、排泄後の清潔保持に取り組み、できるだけおむつを使用しないで排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便状況を把握し、水分補強や食事、おやつに食物繊維のある物又、牛乳やヨーグルト等を取り入れたり、体を動かしたりして、なるべく自然排便できるよう取り組んでいる。緩下剤を服用している方の排便状況に応じて、主治医へ報告しながら調整を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴は基本的に週3回であるが本人の希望や皮膚の状態に応じて毎日でも対応している。入浴時は本人の希望に合わせて、好きな時間に入れるようにしている。入浴を好まれない方には無理強いせずタイミングを見計らい声かけしている。	車椅子の利用者が使用できる特殊浴槽を設置しており、入浴は週に3回のペースで、利用者の希望を尊重して個別に入浴支援をしている。入浴を好まない利用者には、工夫して対応しており、入浴が気分よくできるように配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し、生活リズムを整える様、努めている。本人の体調や習慣により昼寝等して頂き、夕食後～就寝時までの間フロアでテレビを見たりお喋りしたりしてゆっくり寛いでもらっている。又、寝付けない時には一緒に暖かい飲み物を飲みながらお話したりと配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情書は薬ケースに貼り、いつでも見れるようにしている。カフェイン時、個々の服用している薬について理解を深めている。投薬ミスがない様、チェック表を基に名前・錠数・日付け・○食後等の確認を二人で行い、口腔内に薬を入れ、飲み込むまで確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人々出来る事や経験を活かし絵画や習字等の表現活動、家事や縫物等本人の役割を感じてもらえるよう支援している。定期的に買い物に出かけ、各々の好きな物を購入し満足出来る様支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	日常的には散歩や外でお茶を取る等している。本人の希望に沿った外出支援を行い、時には家族の協力をもらい行っている季節ごとの催し（花見・ソウ流し等）や地域の催し物に出かけられるよう支援している。	天気のよい日は、散歩やドライブに出かけ、買い物や近くの図書館に行ったりしている。希望に応じて買物外出や墓参りなどを行っており、家族の協力も得ている。歩行困難な利用者も、外出時はリフト車を利用して出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持つことで安心される方には家族の理解の下に持って頂いており、買い物の後に職員としつ所に残高の確認を行っている。困難な方にはホームの金庫にお預かりし月初めに家族へ収支の報告を行っている。買い物に行った際は預かり金や本人持ちのお金で買い物される。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	本人がかきたい時に、電話がかけられるよう支援しており、お届け物や手紙を頂いた時には、お礼の電話を一緒に入れている。個々の状態に応じて手紙を読んだり、手紙の希望があれば代筆や見本を見ながら自分でかける様支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は季節感を感じてもらう為に四季に合わせて装飾を変更している。カーテンやよしず・夏場はグリーンカーテンにて光や温度の調節を行い、目でも楽しめる様工夫している。1日の中で時間を決め温度・湿度の確認を行い調節している。	フロアは広く日当たりがよく、温度や湿度の管理が行われ、季節感を大事にした飾り付けがされている。窓側の好きな場所で自由に過ごせるようにソファが置いてあり、利用者が落ち着いて生活できる環境の工夫がなされている。ベランダでひなたぼっこもできる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにて話をしたりテレビを見たり、思い々に過ごされ、居室でも一人の時間を大切に出来る様見守りを行っている。気の合った入居者様同士お互いの部屋を行き来し、話をされている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れた物を（家具・仏壇など）持ち込んでもらい馴染みのある物で以前の生活が維持でき、安心して過ごせる様配慮している。	居室は、ベッドや整理タンスが設置してある。テレビや本人の使い慣れた家具や写真・仏壇等があり、利用者が居心地よく暮らせる配慮がなされている。転倒しやすい利用者には、畳を敷く等、安全にも配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	全てに手すりが設置しており又歩行の障害となる物を置かない様、安全に移動が出来る様配慮している。入口のドアやトイレ等、本人が覚えやすい目印となる物をつけたり出来るだけ自立出来る様工夫している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない